

成果概要一覧表

研究題名	研究等の概要	診療科	研究責任者	実施症例数
膀胱癌へのBCG膀胱内注入療法の治療効果について	BCG膀胱内注入療法の治療指標を見出す研究	泌尿器科	宇都宮 拓治	46件
再発危険因子を有するステージII大腸癌に対するUFT/LV療法の臨床的有用性に関する研究	治癒切除後のステージII大腸癌(Ra Rb除く)において再発高リスクと考えられる症例を対象に、手術単独に対して本邦における補助化学療法法の標準治療の1つであり日本において最も頻用されているUFT/LV術後補助化学療法を施行し、その有用性を比較検討する。 主要評価項目 無病生存期間 副次評価項目 全生存期間 有害事象の発言頻度と程度 手術後24時間以降のCEAmRNA陽性の有無による効果と予後の検討	外科	船津 健太郎	26件
終末期がん患者との面会交流に対し困難感を感じる家族への看護の実践	本研究の目的はがん終末期患者の家族が何らかの理由で満足に面会交流を行うことができていない場合に対する看護師の関わりの実践について調査を行い、看護師の関わりを明らかにすることである。看護師の関わりを明らかにすることにより、何らかの理由で満足に面会交流を行うことができていないご家族に対する家族看護の質の向上に資することができるかと考える。	創価大学看護学部看護学科	友成 未歩	1件
看護学実習において病棟看護師と協働して実習指導を実践するための実習指導者のロールモデル行動	本研究の目的は、看護学実習において病棟看護師と協働して実習環境を整えるための、実習指導者のロールモデル行動を明らかにすることである。実習指導者のロールモデル行動が明らかになることで、実習指導者はどのように病棟看護師と協働して実習環境を整えていくべきか、その手がかりが得られると考える。また、今後の看護学実習における実習指導の質向上に寄与する知見が得られると考える。	創価大学看護学部看護学科	重枝 良美	1件
糖尿病教育入院中の運動療法の取り組みについて～退院後の経過を含めて～	糖尿病の治療の一つとして運動療法は重要である。しかし、理屈ではわかっているものの、その実効率は薬物治療の実効率より低いと報告されている。そのため、臨床的には患者さん(い)に対して運動の必要性や方法を伝えるかがアドヒアランスを高めるうえで重要である。当院での糖尿病教育入院中に行っている運動療法の講義と退院後の継続状況について報告する。	代謝内分秘内科	山口 真哉	30件
臨床腫瘍径2cm超の非小細胞肺癌における外科的切除マージンの指針(診療情報を用いた後ろ向き解析研究)	・現在の肺癌の標準術式は肺葉切除であるが、耐術能に問題がある場合にやむを得ず(消極的縮小手術)、あるいは早期肺癌に対しては肺機能温存を目的として、縮小手術(積極的縮小手術)が選択される事もある。 後者については特に、ground glass opacity;GGOを呈する肺癌について、臨床試験の結果を持ちつつも多くの後ろ向き試験での肯定的結果を基に、実臨床ではしばしば行われている。 ・2cm以下の非小細胞肺癌において、局所再発を防ぐために必要な切除マージンは、腫瘍径以上もしくは2cm以上との報告がある。しかし、2cm超5cm以下の非小細胞肺癌についての報告はこれまで無いため、今回2cm以上の非小細胞肺癌に対して局所再発を防ぐために必要な外科的切除マージンの指針を検討する。	呼吸器外科	鈴木 繁紀	546件
日本整形外科学会症例レジストリー(JOANR)構築に関する研究への参加について	公益社団法人日本整形外科学会が対象としている運動器疾患(加齢性疾患、外傷、先天性疾患、感染、腫瘍などは小児から高齢者まで罹患する。とくに高齢者のロコモティブシンドロームは4700万人とされ、本領域での手術件数は120万件を超えている。しかし全国規模の包括的なレジストリーが存在しないため、全容が不明である。データベースを構築することにより1.運動器疾患に対するデータに基づいたエビデンスの構築、2.専門医制度のための症例データベース、3.外科学系学会 社会保険委員会連合試験の実態調査、製造販売後調査、新規医療技術の評価など国民健康向上の観点に加え、医療経済上も重要と考えられる。このたび上記のレジストリーに参加して運動器疾患の医療に貢献することを目的とする。	整形外科	荒武 正人	328件
COVID-19におけるシクレソニド使用の効果に関する研究 フェビピラビル等の抗ウイルス薬が投与されたCOVID-19患者の背景因子と治療効果	COVID-19感染症に対してフェビピラビルやシクレソニドは適応外使用である。投与にて治療効果が望める可能性がある。 また、治療した患者情報について、匿名化した上で他施設へ情報提供を行い、治療方法の統一に協力する。	呼吸器内科	山本 倫子	7件
COVID-19におけるレジストリ研究	COVID-19に対してレジストリの構築、薬剤投与例について使用した薬剤、使用後の経過などにつき情報提供を行う。	呼吸器内科	山本 倫子	5件
COVID-19感染施用におけるIgG,IgM抗体検査の有用性の検討	2019年より新型コロナウイルス肺炎(COVID-19)が全世界を蔓延している。この早期発見に対してPCR法が用いられているが、咽頭からの採取時の罹患リスク、判定に6時間かかるなど煩雑さがありまた精度が30-70%と難点がある。一方IgM-IgG抗体検査は血液採取後10分程度で判定できるうえに、精度も80-90%である。ただし、罹患直後の陽性判定がどの程度か不明である。このため、相模原協同病院を受診したCOVID-19疑いの症例において、PCR検査とIgM-IgG検査を比較検討することによりIgM-IgG抗体検査の有用性を評価する。	診療部	井關 治和	136件